

事業報告書（令和6年度）

事業名 山南地区地域活性プロジェクト

団体名 山南地区地域活性プロジェクトチーム

担当者名 東森 貢

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

【①大宮オーガニックコットンについて】

- ・令和6年10月16日に山南学園の5年生38人と、地域住民4人でオーガニック Cotton の収穫作業を行った。
- ・令和7年2月25日に地域住民と山南学園5年生38人が収穫した綿花の糸紡ぎを行った。



【②古墳群について】

- ・令和7年1月24日に大宮地区、春日神社周辺の古墳群で、山南学園8年生10人と地域の住民3人で通路の整備を行った。
- ・令和7年2月19日に地域の方と古墳グループの生徒で看板づくりを行った。



2. ESD の視点

- ① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

- ・綿花が畑で育ってから糸になり製品になる過程を体験することで、自分たちの生活と体験を結び付けて考えることができるようになった。
- ・地域おこしの一環としてオーガニック Cotton の栽培に取り組む地域の方と触れ合うことにより地域の方とのきずなが深まり地域の方のふるさとに対する思いに気が付いた。。
- ・自分たちの生活している場所に古墳があることを初めて知り、実際に現地を訪れたり整備したりすることを通して地元の歴史に興味を持ち、ふるさとを大切にしていこうとする態度が生まれた。

② どのように学び合いを取り入れたか

- ・昨年収穫した綿花を 9 年生が地域の方とともに紡ぐ様子を 5 年生が知り、自分たちの活動の参考にした。
- ・8 年生の 1 グループが古墳に詳しい地元の講師の方や住民の方とともに古墳を訪れ知見を広げ、ほかのグループの生徒に学んだことを発表会の中で伝えた。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

- ・5 年生が収穫し紡いだ糸でミサンガを作り、新 1 年生の入学のプレゼントにする。
- ・古墳の場所を案内する看板や古墳のある場所を示す地図を地元の人と一緒に作り、訪れる人を増やす工夫について考えた。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

取り組みをするまでは意識することのなかった地域の人々の思い、地域の歴史、自然の良さを意識することができた。知った上で、地域の良さをたくさんの人に知ってもらいたいという思いが高まり、発表やパンフレットづくりにつながった。また、ふるさとを大切にしたり、地域のためにできることを行なっていこう、という意識が子どもたちの中に広がっただけでなく、子どもたちの姿に刺激を受けた地元の方々が活動に協力してくださり、子どもたちと地元の方との関わりが増えたことが持続可能な町づくりにつながっている。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

今取り組んでいる 5 年生、8 年生の活動を継続していくことで山南地区に住んでいる子どもたち全員が綿花や古墳について学び、地域の歴史や自然について知ることが持続可能な町づくりにつながっていくことになる。また、助成事業による経済的な支援が活動の工夫につながる。